

# 2021年度大学入学者選抜変更点一覧

2019年以降に発表された2021年度入学者選抜の変更点の情報を一部を下記にまとめた。年度末にかけて大規模私立大学をはじめ、数多くの大学が情報を公表しているが、大学入学共通テストや英語外部試験の具体的な活用方法については後日公表する大学も散見されるため、今後の動向にも注意が必要だ。

※ここに掲載している情報は、2019年3月時点で(株)さんぽうが独自に調査したものです。掲載内容については今後変更等の可能性もあるため、各大学公表の最新情報を大学HP等で必ず確認してください。  
※この一覧ではさんぽうの独自調査のデータの中から「学校推薦型/総合型選抜で学力検査を課す大学」「一般選抜で調査書等を評価対象とする大学」を中心に取り上げています。

大学名	設置学部	入試方法	大学入学 共通テスト 利用	英語試験		調査書での選考	その他変更点・備考
				民間認定 試験利用	備考		
<b>千葉県</b>							
敬愛大学	経済学部 国際学部	共通テスト利用入試	○	△	共通テストの英語試験または大学入試センターが認定する英語外部資格・検定試験の活用を想定しているが、詳細は現在検討中。 一般選抜と総合型選抜においては、本学指定の英語外部資格・検定試験に加え、認定試験も活用できるようにすることを検討中。	高大接続、学力の3要素の評価の観点から、調査書等を可否の判定に活用する。	すでにすべての入学者選抜区分で学力の3要素の評価を行っているが、現行の選考方法をベースとしつつ、学力の3要素をより多面的・総合的に評価できるような、種々の改善を検討している。従来のセンター試験利用入試に代わって実施。
<b>東京都</b>							
拓殖大学	商学部 外国語学部 国際学部 工学部	総合型選抜					学力の3要素を多面的・総合的に評価する試験内容とし、基礎学力を測る試験、プレゼンテーションや面接の実施、高校での活動等を評価。
		学校推薦型選抜				調査書は現行の入試と同様に書類として提出。eポートフォリオの活用は行わない予定。	学力の3要素を多面的・総合的に評価する試験内容とし、基礎学力を測る試験、面接の実施、調査書の評定値や課外活動の実績等を評価。
		一般選抜	○	○	英語の4技能評価のため、外検を活用。現行の英語外部試験スコア利用入試に準じた内容で改めて検討する予定。		問題はマークシート式とし、記述式問題は出題しない。主体性・多様性・協働性に関する経験等を受験生本人にインターネット出願時に定められた文字数で入力求める。なお、合否判定には活用せず、入学後の教育指導等に活用。共通テストの成績を活用。記述式問題(国語・数学)の成績も活用する方向で検討中
東京都市大学	工学部 知識工学部 環境学部 メディア情報学部 都市生活学部 人間科学部	一般選抜		○	一部で「筆記」中心の試験に代えて外部の資格・検定試験を活用することを可とする。具体的にはグレードに応じた得点換算によって筆記試験の代替とすることができる。	「調査書」は原則としてすべての入試制度で提出を求める。一般選抜では筆記試験に比重を置いているため、「調査書」は本学のアドミッションポリシーへの適合と「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有していることを確認するために利用するが、点数化し、合否判定に利用することはない。 ※本学では「TCU-FORCE」というキャリア開発用ポートフォリオシステムを導入。入試の際に提出したこれらの情報は入学後に当該システムに接続し、入学後のキャリアデザインと卒業時の学修成果の可視化に結び付けていく。	3要素の中で特に「知識・技能」に比重を置いた判定を行う入試制度となるが、出題内容や科目数、記述式解答方式により多面的な評価を試みる。 3要素や学術研究領域に対する意欲を確認するために、WEB出願時に志願者本人による関連情報の入力を求める。
		共通テスト利用入試	○	×	外検については当面適用せず、共通テストとして問題作成され実施される試験(「筆記(リーディング)」「リスニング」)の成績を適用する。	「調査書」は原則としてすべての入試制度で提出を求める。 ※本学では「TCU-FORCE」というキャリア開発用ポートフォリオシステムを導入。入試の際に提出したこれらの情報は入学後に当該システムに接続し、入学後のキャリアデザインと卒業時の学修成果の可視化に結び付けていく。	現行のセンター試験利用入試を共通テストを利用した入試制度に変更して実施。 国語の判定は現行同様「近代以降の文章」のみ対象。国語に導入される記述式問題は5段階評価で示される予定だが、マーク式問題の配点はこの5段階評価も組み込むこととし、具体的な点数化の方法を検討していく。 「数学I」「数学II」に記述式問題が加わる予定だが、マーク式問題と一体化した配点となるため、本学の判定においてもそのまま適用する。 英語は現行の「筆記」200点、「リスニング」50点の配点に変更される予定だが、本学の判定における適用方法は今後検討とする。9段階程度の段階別評価については、本学における共通テスト利用入試の判定では利用しない。
		学校推薦型選抜				3要素を判定するために「調査書」および「推薦書」や志願者本人の記載する志望理由書や、活動報告書等を活用するとともに、面接や適性検査等を実施する。 「学校推薦型選抜」ではさらに志願者本人が記載する志望理由書や活動報告書等も求め、これを高い比重で判定に活かす。	
文化学園大学	服装学部 造形学部 現代文化学部	一般選抜		×	外検の成績は合否判定には活用しない。		本学が指定する教科・科目から2科目を選択し、解答を求める。(本学独自の出題)
		共通テスト利用入試(一般選抜)	○	○	大学入試センターが認定した英語の外検の結果を判定に活用する。但し、共通テストの出題科目「英語(リスニング含む)」を受験した志願者のみを対象とし、英語科目の得点に外検の結果を加算する。	調査書と志願者本人が作成した書類(志望理由書・活動報告書)の提出を求める。 各学部学科の方針に従い、調査書と志願者本人が作成した書類の内容を得点化し合否判定に用いる。	本学が指定する共通テストの教科・科目から2科目を選択し、その成績を合否判定に利用する。(本学独自の試験は無し) 国語の記述式問題の得点(段階別成績)は、評価の対象としない。 数学の記述式問題の得点は、評価の対象とする。 合否判定は、入試の成績及び出願書類に基づき総合的に評価する。
		総合選抜型		○	外検の成績を活用したAO入試も実施。		面接を行う。
明治大学	法学部 商学部 政治経済学部 文学部 理工学部 農学部 経営学部 情報コミュニケーション学部 国際日本学部 総合数理学部	共通テスト利用入試	○				全ての学部で実施。 ※主体性の評価について ・2021年度入試についてはJAPAN e-Portfolioは利用しない。 ・Web出願時に高校時代の主たる活動等を入力するが、データは一般入試においては点数化せず、入学後の指導上の参考資料として利用する。
		その他の入試		×	英語の外検は2021年度入試については全ての学部で活用しない。		※主体性の評価について ・2021年度入試についてはJAPAN e-Portfolioは利用しない。 ・Web出願時に高校時代の主たる活動等を入力するが、データは一般入試においては点数化せず、入学後の指導上の参考資料として利用する。 ※一般入試について ・2021年度の「一般選抜」および「全学部統一入試試験」の詳細については決定次第HPで公表する。 ＜理工学部情報科学科＞ 2021年度入試(2020年度実施)から、アドミッションズ・オフィス(AO)入試試験を停止。
		一般選抜	○	○	＜共通テストについて＞ 外検の成績を活用する(外検の成績を得点化し、外国語「英語」(筆記・リスニング)の得点と共に利用)。英語資格・検定試験における利用可能な試験、得点化方法は後日改めて公表。		＜共通テストについて＞ 全学部で実施(複数の学部・学科(専修)の併願が可能。科目・配点・募集人員等は後日改めて公表する)。国語および数学の記述式問題の成績を活用する(国語の記述式問題の成績(段階別評価)は得点化し、マーク式問題の得点と共に利用)。 ＜志願者本人が記載する資料等＞の一般選抜における活用について Web出願時に、志願者本人に「主体性」「多様性」「協働性」に関する経験等の記入を求める。全ての学部、全ての一般選抜(後日公表する一般選抜を含む)で記入を求める。出願要件とするが、得点化はせず、入学後の学修指導、教育研究活動の参考資料とする。
立教大学	文学部 異文化コミュニケーション学部 経済学部 理学部 社会学部 法学部 観光学部 コミュニティ福祉学部 経営学部 現代心理学部 グローバル・リベラルアーツ・プログラム(GLAP)	一般選抜	○	○	＜大学入学共通テスト利用選抜＞ 英語科目の取り扱いについて、共通テストで実施される英語試験の採用は募集単位ごとに定める。英語の外検について、受験生本人の所有(英語力)としてCEFR対照表に基づき個人に加点する予定。(判定科目に英語を含まないことを認める場合でも、検定試験のCEFR対照表に基づくポイントを加点対象とする。)この採用についても募集単位ごとに定める。		＜一般入学者選抜＞ アドミッション・ポリシーに応じた科目設定において入学者選抜を行う。従来の「知識」を主とした評価に加え、「思考力・判断力・表現力」についても適切に評価する方式も用意する。 ＜大学入学共通テスト利用選抜＞ 国語科目の取り扱いについて、共通テストで実施される国語試験の採用は募集単位ごとに定める。国語の記述式問題の段階別の成績表示については、その結果を点数化し、マークシート式の得点に加点して活用。数学の記述式問題については、出題の中でマーク式問題と一体化して出題され、記述式問題にも配点がなされることから、従来のマーク式問題と同様の扱いとする。
		総合型選抜 学校推薦型選抜				一定の学力を確認するために、調査書や推薦書等の書類に加えて、小論文や面接(口頭試問等も含む)、プレゼンテーション、実技、各教科・科目の基礎学力に係わるテスト、資格・検定試験の成績などを用いた多様な評価方法にて実施。	志願者本人が記載する活動の履歴や主体性等の資料について、面接やプレゼンテーション、セミナー、フィールドワーク等、また、エントリーシートや調査書等の書類により「主体性」を持って、多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。(受験生自身が学校生活における自身の活動の履歴や、学びの履歴等について記録しておく事。これらは、高大接続改革の一環として、大学入学後に受ける大学教育・大学生活における参考資料として活用することが考えられている)
<b>神奈川県</b>							
湘南医療大学	保健医療学部	総合型選抜 学校推薦型選抜					学力の3要素を活用し、多面的・総合的に評価。評価については各選抜で実施する「面接」にて評価を予定。 従来のAO入試、推薦入試の選抜方法・試験科目を踏襲する予定。
		一般選抜		○	英語の外検を活用する予定。(活用方法は追って公表予定)		学力の3要素を活用し、多面的・総合的に評価。評価については各選抜で実施する「面接」にて評価を予定。 従来の一般入試の選抜方法・試験科目を踏襲する予定。なお記述式問題の導入については現在検討中。
		大学共通テスト利用選抜	○			「調査書」、志願者本人の記入する「志望理由書」については面接評価に含めて評価する。	学力の3要素を活用し、多面的・総合的に評価。評価については各選抜で実施する「面接」にて評価を予定。 従来のセンター試験利用入試に代わる共通テストの成績を利用した入学者選抜を実施。共通テストの受験を要する試験科目等については従来のセンター試験利用入試の試験科目を踏襲する予定。なお全学科専攻において「面接」を実施するとともに記述式問題も一部導入する予定。

# 大学入学者選抜改革特集

大学名	設置学部	入試方法	大学入学共通テスト利用	英語試験		調査書での選考	その他変更点・備考
				民間認定試験利用	備考		
<b>新潟県</b>							
新潟リハビリテーション大学	医療学部	全入試共通	○	○	英語の外検の得点を活用する予定。成績の活用方法、どの入試に活用するかについては現在検討中。	調査書や志願者本人が記載する資料等を合否判定に活用する予定。志願者本人が記載する資料等の内容については決定次第速やかに公表予定。	学力の3要素をアドミッション・ポリシーに基づいて多面的、総合的に評価する。 センター試験に代わる共通テストの成績を利用する。共通テストの「国語」及び「数学」の記述式問題も評価の対象とする予定。(どの入試に活用するかについては検討中)
<b>愛知県</b>							
愛知大学	法学部 経済学部 経営学部 現代中国学部 国際コミュニケーション学部 文学部 地域政策学部	一般選抜	○	○	英語の4技能を適切に評価するため、外検を活用する。なお、資格・検定試験は出願要件ではないため、資格・検定試験を受験していない場合も出願できる。	調査書について、出願時に提出を求めるが加点対象とはしない。	共通テストについては、択一式問題に加え記述式問題も評価の対象とする。記述式問題は以下の通り活用。 国語・記述式問題の段階別評価を得点化し、マーク式問題の得点に加算。 数学I・記述式問題の得点をそのまま活用 共通テストの外国語試験を利用。 JAPAN e-Portfolio等のeポートフォリオは合否判定に活用しない。また、2021年度入試においては提出は求めない。
		学校推薦型選抜 総合型選抜				調査書を用いて面接試験等を実施の上、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等を評価。	「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価するため、本学独自試験等を実施する。 JAPAN e-Portfolio等のeポートフォリオは合否判定に活用しない。また、2021年度入試においては提出は求めない。
中京大学	国際教養学部 文学部 国際英語学部 心理学部 現代社会学部 法学部 経済学部 経営学部 総合政策学部 工学部 スポーツ科学部	一般選抜	○	○	共通テストの外国語について、英検準1級相当の能力を有している方は、満点とする。(利用可能な資格・検定試験は、大学入試センターが認定した資格・検定試験とする予定だが、詳細については、改めて公表予定) 英語の4技能を適切に評価するため、現在の前日程入試A方式3教科型で実施している満点方式(英検準1級相当の能力を有している方は、中京大学独自試験の外国語の得点を100点として判定)を継続する予定。また、その他の方式でも、この満点方式を実施できるよう準備中。(資格・検定試験のスコア等の詳細については、後日公表予定)	調査書の記載内容を点数化し合否判定に活用しない。但し、調査書を合否判定の参考資料とする場合がある。	従来実施しているセンター試験利用方式に準じた方式で、共通テストを活用する。 共通テストの国語の記述式問題において、段階別評価を点数化して評価。(配点等の詳細については後日公表予定)また、数学I・数学Aの記述式問題においては、マーク式問題の得点と記述式問題の得点を合算して評価。(詳細については後日公表予定) JeP等の記載内容を合否判定に活用しない。
		総合型選抜 学校推薦型選抜					現在の入試方式に準じた入試を実施する予定だが、高大接続改革の趣旨をふまえて試験内容を変更する可能性が有る。(詳細については後日公表予定)
<b>兵庫県</b>							
神戸海星女子学院大学	現代人間学部	総合型選抜(AO[KAISEI]入試)					予備選考でエントリーシート(活動報告や志望理由、入学後の目標等)を評価。 本選考では小論文・調査書・面接内容を総合的に評価。
		学校推薦型選抜(学校推薦入試I-II)		○		筆記試験ではこれまで同様に、英語外部試験利用等資格取得による試験免除・加点制度がある。	筆記試験(記述式)・面接・調査書・学校長による推薦書を総合的に評価。
		学校推薦型選抜(指定校推薦)					調査書・学校長による推薦書・口頭試問・面接を総合的に評価。
		総合型選抜(自己推薦入試A)		○		筆記試験ではこれまで同様に、英語外部試験利用等資格取得による試験免除・加点制度がある。	筆記試験(記述式)・面接・調査書・自己推薦書(志望理由・活動報告)を総合的に評価。
		総合型選抜(自己表現入試)					自己表現(プレゼンテーション・実技等)・面接・調査書・自己推薦書(志望理由・活動報告)を総合的に評価。
		総合型選抜(自己推薦入試B・C)					調査書・自己推薦書(志望理由・活動報告)・課題作文(活動報告や将来の目標などを補完する内容)・面接を総合的に評価。
		一般選抜(一般前期A・B)		○		筆記試験ではこれまで同様に、英語外部試験利用等資格取得による試験免除・加点制度がある。※取得スコアによる「みなし得点」	筆記試験(記述式)・調査書を評価。
		一般選抜(一般後期A・B)					筆記試験(記述式)・調査書を評価。(筆記試験には「思考力を問う問題」が含まれる。)
神戸国際大学	経済学部 リハビリテーション学部	一般選抜	○	○	個別学力試験において英語の外検を活用(具体的な活用方法は検討中) 共通テストにおいても英語の外検を活用(具体的な活用方法は検討中)	調査書等の判定を積極的に活用	個別学力試験を課し、マーク式の問題に加え、記述式(科目未定)の問題を出題する。 共通テストの成績を利用(マーク式に加え、記述式の問題も評価の対象とする)
<b>岡山県</b>							
岡山理科大学	理学部 工学部 総合情報学部 生物地球学部 教育学部 経営学部 獣医学部	一般選抜	○				学力の3要素を多面的、総合的に評価することについて、現在検討中。決定次第改めて公表。
		学校推薦型選抜			△	現在検討中	<特別推薦選抜> 調査書や本人が記載する資料等を積極的に活用 <A方式・K方式> 「思考力・判断力・表現等の能力」と「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を調査書で評価。
		総合型選抜					<特別推薦選抜> 「基礎的な知識・技能」を学力検査、「思考力・判断力・表現力等の能力」と「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を個人または団体面接により評価。
		上記以外のその他の選抜					能力を学力検査、適性や意欲、目的意識などを提出書類と面接により評価。
<b>広島県</b>							
広島文化学園大学	看護学部 学芸学部 人間健康学部	総合選抜入試				調査書、エントリーシート、自己アピール、実技(音楽学科のみ)、AO面接結果を総合的に考慮して選考する。	音楽学科を除くすべての学科において「自己アピール」(プレゼンテーション)を課す。
		学校推薦型選抜入試				推薦書(志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた「学力の3要素」に関する学校長の評価)、調査書、小論文(音楽学科は実技試験)、面接結果を総合的に考慮して選考。	小論文を課さない試験(教育連携指定校推薦入試、地域特別推薦入試)では、本人の記載する資料として「志望理由書」の評価を行う。また、スポーツ特別推薦入試では「スポーツ実績」、音楽特別推薦入試では「コンクール等の入賞実績」も評価する。
		一般選抜入試	○	×		<A日程> 調査書、学科試験(音楽学科は実技を含む)の結果を総合的に考慮して選考する。 <B・C日程> 調査書、小論文(音楽学科は実技試験)を総合的に考慮して選考する。「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価には調査書を活用する。 <大学入学共通テスト> 調査書、共通テスト(音楽学科は実技試験を含む)の結果を総合的に考慮して選考する。「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価には調査書を活用する。	<A日程> 大学(音楽学科を除く)は3教科(国語・数学・外国語)から2教科2科目選択(ただし、子ども学科とスポーツ健康福祉学科は国語必須)、音楽学科と短期大学は1教科1科目を選択。 <B・C日程> 小論文は、自らの考えに基づき論を立てて記述させる「課題設定型」とする。 <大学入学共通テスト> 共通テストは、大学(音楽学科を除く)は高得点の2教科2科目で選考(ただし、子ども学科とスポーツ健康福祉学科は国語必須)、音楽学科と短期大学は高得点の1教科1科目で選考する。
<b>長崎県</b>							
活水女子大学	国際文化学部 音楽学部 健康生活学部 看護学部	一般選抜	○	○	英語の外検について、大学入試センターが認定する外検を一般選抜等に活用する。	学力の3要素、特に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価するため、全ての入試区分において、調査書や志願者本人が記載する資料等を合格者の判定に活用する。	従来のセリ利用に代わる共通テストの成績を利用した入学者選抜を実施。「国語」と「数学」はマーク式問題に加え、記述式問題の結果を利用する。国語は段階別成績を点数化して加算する。
<b>熊本県</b>							
熊本保健科学大学	保健科学部	一般選抜				学力の3要素を評価する為、出願書類による主体性等の評価を点数化し、評価する。 [出願書類]調査書、本人記載資料 [選抜方法]科目試験(配点100点×3)、出願書類(配点20点)	※各学科・専攻が指定する教科・科目等については、現行から大幅な変更は行わない予定だが、詳細は、別途、本年度中に公表予定。
		学校推薦型選抜		○		学力の3要素を評価する為、高校生活における活動実績等を点数化して評価する。 <指定校推薦> 調査書の学習成績が3.8以上であること。 [出願書類]推薦書、志望理由書、調査書 [選抜方法]小論文(配点100点)、個人面接(段階評価) <一般推薦> [出願書類]推薦書(ボランティア活動、クラブ活動、外検などの高校生活における活動実績等を点数化して評価)、調査書 [選抜方法]推薦書(配点20点)、総合問題(配点150点)、グループ面接(段階評価)	
		総合型選抜(新たに導入)				学力の3要素を評価する為、小論文や面接の他、質疑応答を含むプレゼンテーションを実施。 [出願書類]志願者調査書(活動報告を含む)、志望理由書等、調査書※(※書類選考合格者のみ) [選抜方法]小論文、プレゼンテーション(質疑応答含む)、面接等	
<b>宮崎県</b>							
宮崎国際大学	国際教養学部 教育学部	総合型選抜	×	×		出願書類のうち調査書を点数化し、個別学力試験に加点する。加点の具体的な方法については検討中。	出願書類および個別学力試験により選抜を行う。 個別学力試験では全学部全学科で「小論文」および「面接」を課す。
		学校推薦型選抜	×	○	英語の外検は出願資格として活用する。		
		一般選抜	○	○	<共通テスト利用入試> 英語の外検を活用。共通テストの英語の得点に加点。加点の具体的な方法については検討中。 <個別学力試験> 一定の資格を取得している場合、英語の学力試験を免除。  国際教養学部においては、現行の出題教科・科目と変更ないが(英語および国語)、英語については外検を使用せず、本学独自の試験で実施。	<個別学力試験> 調査書や志願者本人が記入する資料等については、引き続き検討。	<共通テスト利用入試> 全学部全学科とも実施教科の中から2教科(科目)を選択。記述式問題(国語・数学)活用方法については引き続き検討中。 [個別学力試験の出題、科目について] 教育学部においては変更なし(英語・国語・数学から2教科選択)後期日程においては、全学部全学科とも「小論文」および「面接」による試験とする。